

日本チバガイギー（株） 機能拡張工事における経緯

令和6年6月 開発行為等の事前協議の申出
令和6年10月23日 開発行為等の許可申請受理
令和6年11月20日 開発行為等の許可

令和7年5月初旬

市議会の向井議員から、市長に対し「日本チバガイギー（株）が製造される医薬品は放射性のもので、（地域の方ではないが）ある市民から不安の声が届けられた」との話があった。

令和7年5月8日

市長と市役所創造都市課の職員が、日本チバガイギー（株）の村上工場長と面談。安全性への配慮についての説明を受け、市長から市民向けの説明会の開催、市との公害防止協定の締結をお願いした。

令和7年5月12日

市主催のふるさと一番会議（日置会場）を開催し、そのなかで「地域から不安の声があるので情報提供をお願いしたい」との意見が出され、市長から地域の方や関心のある市民の方への説明の機会をお願いしている旨、回答した。

令和7年5月15日

日本チバガイギー（株）の社員2名が市役所市民安全課を来訪され、医薬品製造の概要と安全性についての説明、地元の野々垣自治会と日置自治会への説明会開催の話があった。

令和7年5月22日

工事の安全祈願祭が行われ、来賓として兵庫県の山下保健医療部長と市長が出席した。安全祈願祭の後、新聞記者向けや社員向けの説明もあった。原料となる放射性物質のルテチウムは海外で製造され、これを輸入して、篠山工場では医薬品に調合される。大地震にも耐え得る建屋、センサーでの監視、鉛プレートでの遮断、廃棄物を最小化する工夫など、説明では安全管理に万全を期していること。代表取締役社長ジョンポール・プリシーノ社長からは、世界の医療、患者さんに貢献する大きな役割を担っているとの話があった。

令和7年6月3日

丹波篠山市議会の全員協議会で市議会議員全員に対し、安全性など市の知り得ている情報、市民向けの説明会をお願いしている旨、説明した。

令和7年6月10日

日本チバガイギー（株）において、野々垣自治会にて説明会を開催。

令和7年6月16日

丹波篠山市では福井の原発群の万一の事故に備え、原子力災害対策検討委員会を設置して、子どもたちを守るため、安定ヨウ素剤の事前配布を行っている。その検討委員会の放射性物質の専門家委員であり、放射線科医師の上紺屋氏の意見を求めたところ、次のとおりであった。

- ・日本チバガイギー（株）が取り扱う原料のルテチウムに関しては心配することはない。この生産は海外で行われ、1回の医薬品調合で取り扱う量は約2mlと微量である。ルテチウムの半減期は約6.5日と極めて短く、製造から20日後にはほぼ機能が失われるうえに、万一水路や河川へ流出したとしても薄められて環境に問題が無い濃度となる。また、揮発しないので、空気中への飛散はない。
- ・兵庫県下でも、ルテチウムなどの放射性物質を取り扱う医療機関等は300以上あり、自分が運営する病院でも放射性物質による治療を行っている。
- ・放射性医薬品を活用した治療を「アイソトープ療法（放射性リガンド療法）」という。体の外から放射線を当てる「外部照射」と異なり、医薬品が点滴により体内に入り、①全身（多臓器）にまで広がった癌を正確に把握し、②体をできるだけ傷つけることなく一斉に攻撃し、③全ての癌を撲滅する、といった特徴があることから、再発やステージ4でもあきらめないという、これからの癌治療への可能性があるといえる。その後、医薬品の成分（放射性物質）は尿として体外に排出され血液中に長く残らない、といった利点もある。

令和7年6月20日

日本チバガイギー（株）において、日置自治会にて説明会を開催。

令和7年7月3日

日本チバガイギー（株）において、城東公民館にて日置地区を対象とした説明会を開催。

令和7年7月11日

物理学の世界的権威で理学博士の小沼通二氏を訪ね意見を求めたところ、別紙のとおりであった。【P8～9参照】

令和7年7月15日

日置地区自治会長会にて説明を行った。

令和7年8月28日

市民から放射性医薬品の安全性に関する意見が寄せられたことから、丹波篠山市原子力災害対策検討委員会を開催し、放射性医薬品製造の概要や安全面について情報の共有を図った。

令和7年9月21日

専門家の小沼氏、上紺屋氏を招聘して、放射性医薬品製造に関する全市民を対象にした説明会を開催した。